

「大切な供養とは」

新潟県 霊源寺住職 川原敏光

最近は、御朱印帳を書くご縁が続いています。今はブームになっており、遠方からはるばる来られる方が多くなりました。

御朱印は巡礼者が、写経したお経を、お寺に納めた時に、お寺が授けた認め印でありました。だから「納経印」ともいわれます。

御朱印は、大胆かつ繊細な筆遣いや個性的な押し印など、手作りの手間をかけた心の表れが、皆さんを引きつけているのだと思います。

先日、幼い我が子を亡くされた、お母さんが子どもの供養の為に、写経をして、御朱印帳を持って来られました。

「子どもの為に、これから、どんな供養をすると良いのでしょうか？」と相談をされました。御朱印を書き、はさみ紙にお地藏様を描き、「脚下照顧」と書いて差し上げました。

日頃、私達は自分の事には、気が付かないことが、たくさんあります。ストレスを溜めていたり、家族のことや、他人のこと等、自分以外のことを気にしていることがあります。自分が自分の生き方を見失い、どんな生き方をしているか、気がつかなくなってしまいがちです。誰かが変わってくれればなどと、自分以外の外側に対して期待してしまうことがあります。

本当に問題なのは、自分の中にあるのです。「脚もとを、顧みて、そこを照らしてみると、気付くことがあります。」

亡くなったお子さまに安心してもらおうことです。その為には、生きている人が幸せになることではないのでしょうか？

亡くなったお子さまはそれを望んでいると思います。亡くなった子どもの望み通りに生きることが供養として大切なことです。

「お子さまを、安心させて下さい。」と、声をかけさせていただきました。(終)